

2018年6月7日

三田市長 森 哲男 様

三田の地域医療と介護をよくす会
代表 東 浦 徳 次
宝塚医療生活協同組合三田支部
三田市小野

市民病院の継続的な経営に関する審議会の中止を求める
(申し入れ)

市民の命と地域医療を守るためにご尽力頂いていることに敬意を表します。

5月30日に三田市民病院の継続的な経営に関する第2回審議会が開催されました。市民の医療ニーズや市民病院が果たしている役割については全く議論もされず、もっぱら市民病院の経営状況が議論されました。市民病院は断らない医療をモットーに、患者も増え病床利用率も向上して2017年度は収益的収支が黒字になり、今後も黒字になることを認めながら、入院単価の高い患者を集めて収益性をもっと高めるべきとの議論が行われました。

市民病院でありながら、入院単価の高い「もうかる患者」を選別すべきというのです。これでは、一般市民は排除されてしまいます。

さらに人件費の低い研修医を集めて、効率的に収益をあげるために大規模な病院に統合再編するとともに、人件費比率を思い切って下げるために民営化を検討すべきとの議論が展開されました。

学識経験者や医療関係者の英知を結集して、市民のための公立病院としての経営のあり方を議論すべき審議会が、高額な患者負担のできる市民だけが利用できる利益追求病院への変質や、病院職員の全員解雇となる民営化、大規模な財政投入になる統合再編の方向を打ち出すのは、明らかに審議会の設置目的を逸脱するものです。

医療の第一線で24時間365日市民の命をまもっている市民病院職員については一考だにされていません。

このような住民も職員も不在の議論を中止して審議会は解散するべきです。市長として直接市民・職員の声を聞く対話を行い、説明責任を果たすことを求めるものです。

